

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

大田区の各行政分野における区民の意向・要望・生活実態を把握するとともに、今後の大田区政の設計や方向性を検討する際の基礎資料とする。

2. 調査項目

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| (1) 定住性 | (9) 国際交流 |
| (2) 暮らしやすさ | (10) 大田区の観光 |
| (3) 健康に暮らせるまち | (11) 地域力の土台づくり |
| (4) バリアフリー・ユニバーサルデザイン | (12) 災害に強いまちづくり |
| (5) 生きがいと誇りをもって暮らせるまち | (13) 防犯に強いまちづくり |
| (6) スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまち | (14) 地球環境 |
| (7) 安定した暮らしと人権 | (15) ごみのない循環のまち |
| (8) 潤いとやすらぎのあるまち | (16) 区政への関心と要望 |

3. 調査の設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査地域 | 大田区全域 |
| (2) 調査対象 | 大田区内に在住する満20歳以上の男女個人（外国人を含む） |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 抽出法 | 層化無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送調査。ただし、回収方法は郵送回収に加え、携帯電話およびパソコンを利用した電子申請からの回答も実施 |
| (6) 調査期間 | 平成27年7月17日～8月5日 |
| (7) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

4. 回収の結果

- | | | |
|-----------|---------------------|-------------|
| (1) 回収数 | 1,070人（電子申請118件含む） | （回収率 53.5%） |
| (2) 有効回収数 | 1,069人（有効回収率 53.5%） | |

5. この報告書の見方

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) クロス集計の図表では、分析軸となる質問(性別、性/年齢別等)に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- (4) 回答者数が30に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。
- (5) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。

6. 標本誤差について

この調査の基本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下記の表のとおりである。基本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、①比率算出の基数(n)、及び②回答の比率(P)によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差
N = 母集団数(大田区の満20歳以上の男女個人)
n = 比率算出の基数(サンプル数)
P = 回答の比率(%)

※後にかかげる表は $\frac{N - n}{N - 1} \div 1$ として算出した。本調査は層化を行っているので誤差はこの表よりやや小さくなる。

たとえば、回答者総数(1,069人)を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%で

あった場合の標本誤差を計算すると、 $b = \pm 2 \sqrt{\frac{0.5 \times (1 - 0.5)}{1,069}} = \pm 3.1\%$ となる。

つまり、回答者総数(1,069人)を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%の時、大田区民(満20歳以上の男女)の真の値は46.9%~53.1%の間にあると考えられる。ただし、信頼度は95%であるので、95%の確率で間違いないと判断できるという意味である。

nとPを上記の式に代入すれば、必要な標本誤差はすべて計算できる。

標本誤差早見表は下記の図のとおりである。

図1 標本誤差早見表 (信頼度 95%)

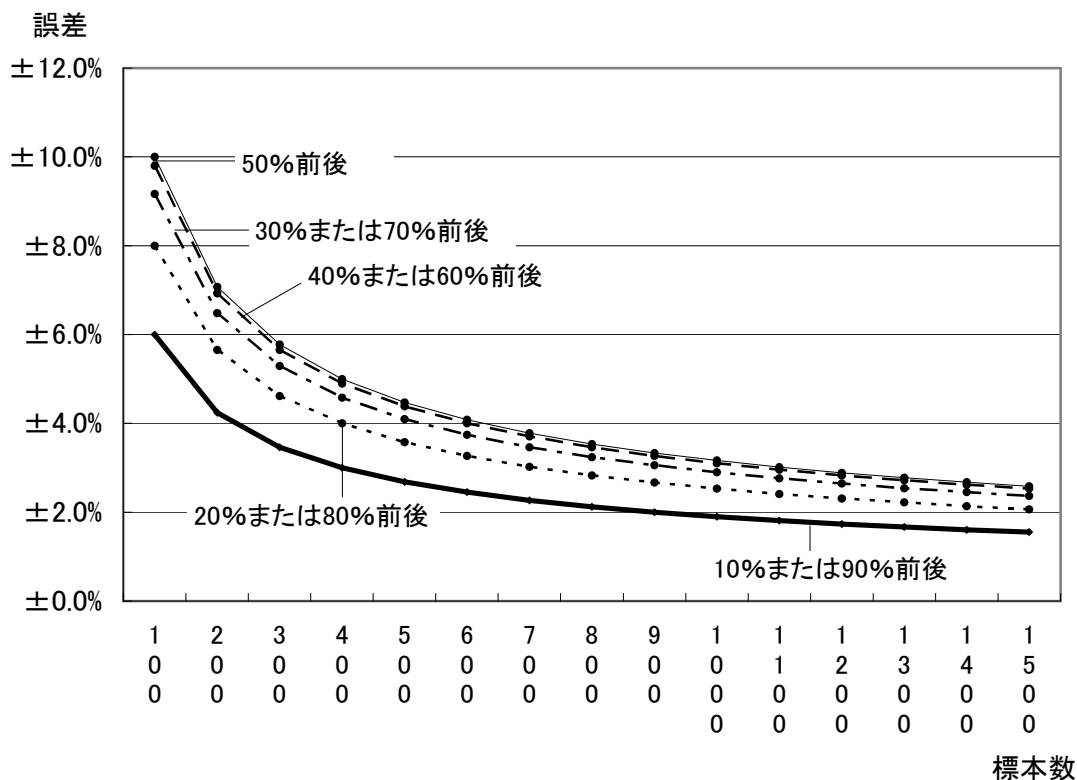


図2 本調査における標本誤差一覧 (信頼度 95%)

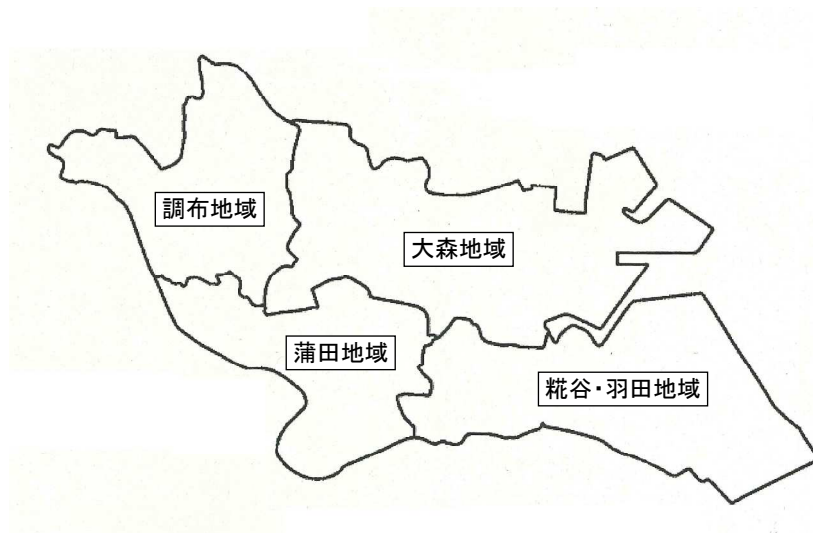
基数 (n)		回答の比率 (P)					
		10%または90%前後	20%または80%前後	30%または70%前後	40%または60%前後	50%前後	
全体		1,069	±1.8%	±2.4%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
地域別	大森地域	363	±3.1%	±4.2%	±4.8%	±5.1%	±5.2%
	調布地域	286	±3.5%	±4.7%	±5.4%	±5.8%	±5.9%
	蒲田地域	298	±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.7%	±5.8%
	糀谷・羽田地域	97	±6.1%	±8.1%	±9.3%	±9.9%	±10.2%
性別	男性	440	±2.9%	±3.8%	±4.4%	±4.7%	±4.8%
	女性	603	±2.4%	±3.3%	±3.7%	±4.0%	±4.1%
性/年代別	男性20代	46	±8.8%	±11.8%	±13.5%	±14.4%	±14.7%
	男性30代	67	±7.3%	±9.8%	±11.2%	±12.0%	±12.2%
	男性40代	92	±6.3%	±8.3%	±9.6%	±10.2%	±10.4%
	男性50代	83	±6.6%	±8.8%	±10.1%	±10.8%	±11.0%
	男性60代	83	±6.6%	±8.8%	±10.1%	±10.8%	±11.0%
	男性70歳以上	69	±7.2%	±9.6%	±11.0%	±11.8%	±12.0%
	女性20代	49	±8.6%	±11.4%	±13.1%	±14.0%	±14.3%
	女性30代	95	±6.2%	±8.2%	±9.4%	±10.1%	±10.3%
	女性40代	124	±5.4%	±7.2%	±8.2%	±8.8%	±9.0%
	女性50代	102	±5.9%	±7.9%	±9.1%	±9.7%	±9.9%
	女性60代	94	±6.2%	±8.3%	±9.5%	±10.1%	±10.3%
	女性70歳以上	137	±5.1%	±6.8%	±7.8%	±8.4%	±8.5%

7. 調査対象者の抽出

- (1) 母集団 大田区内に在住する満 20 歳以上の男女個人（外国人を含む）
（平成 27 年 4 月 1 日時点）
- (2) 抽出台帳 大田区住民基本台帳
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出法 層化無作為抽出法
- (5) 地域区分 区内を、4 地域（大森、調布、蒲田、糎谷・羽田）に分類し、それぞれを層とした。

地域名	所管区域
大森地域	大森東特別出張所管内、大森西特別出張所管内、入新井特別出張所管内、馬込特別出張所管内、池上特別出張所管内、新井宿特別出張所管内
調布地域	嶺町特別出張所管内、田園調布特別出張所管内、鶯の木特別出張所管内、久が原特別出張所管内、雪谷特別出張所管内、千束特別出張所管内
蒲田地域	六郷特別出張所管内、矢口特別出張所管内、蒲田西特別出張所管内、蒲田東特別出張所管内
糎谷・羽田地域	糎谷特別出張所管内、羽田特別出張所管内

図 3 地域図



- (6) 標本数の配分 各地域における 20 歳以上の人口（平成 27 年 4 月 1 日現在）に応じて標本数を比例分配した。
- (7) 対象者抽出 1 地域ごとに、「(6)」で設定した標本数を無作為抽出した。

以上の結果、地域別の標本数及び有効回収数は次のとおりである。

地域名	20歳以上人口(構成比)	標本数	有効回収数(率)
大森地域	200,897 (33.3%)	665	363 (54.6%)
調布地域	154,427 (25.6%)	512	286 (55.9%)
蒲田地域	182,871 (30.3%)	606	298 (49.2%)
糀谷・羽田地域	65,395 (10.8%)	217	97 (44.7%)
無 回 答			25
合 計	603,590 (100.0%)	2,000	1,069 (53.5%)